

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2004-536976(P2004-536976A)

【公表日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【年通号数】公開・登録公報2004-048

【出願番号】特願2003-515722(P2003-515722)

【国際特許分類】

D 2 1 H 13/14 (2006.01)

D 2 1 H 13/26 (2006.01)

F 1 6 C 33/20 (2006.01)

【F I】

D 2 1 H 13/14

D 2 1 H 13/26

F 1 6 C 33/20 A

【手続補正書】

【提出日】平成17年7月13日(2005.7.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

その中に分散された少なくとも1種のフルオロポリマーフлокと、少なくとも1種の可湿性構造有機フロックとの混合物を含んでなる可飽和不織材料。

【請求項2】

請求項1に記載の可飽和不織材料とマトリックス樹脂とを含んでなるプレプレグ。

【請求項3】

請求項1に記載の可飽和不織材料を含んでなる自動給油軸受。

【請求項4】

その中に分散された40重量%～60重量%のフルオロポリマーフлокと、10重量%～40重量%の可湿性構造有機フロックとの混合物を含んでなる可飽和不織材料。

【請求項5】

その中に分散された40重量%～60重量%のフルオロポリマーフлокと、60重量%～40重量%のメタ-アラミドフロックとの混合物を含んでなる可飽和不織材料。

【請求項6】

その中に分散された45重量%のフルオロポリマーフлок、36重量%のメタ-アラミドフロック、10重量%のメタ-アラミドフィブリド、および9重量%の樹脂の混合物を含んでなる可飽和不織材料。

【請求項7】

請求項1に記載の可飽和不織材料の製造方法であって、

a) 可湿性構造有機フロック、フルオロポリマーフлокおよび場合によりバインダーを含んでなる混合物の水性分散系を製紙装置のスクリーン上へ送達する工程と、

b) 水性分散系から水を抜いて湿った紙フェルトを残す工程と、

c) 湿った紙フェルトを乾燥する工程と
を含んでなる方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

【表2】

表2

実施例	25~30N荷重での摩擦係数	100~150N荷重での摩擦係数	100Nで800分荷重後の摩耗(mkm)
1	0.18	0.20	45
2	0.22	0.22	110
3	0.22	0.25	100

本発明の好適な実施の態様は次のとおりである。

1. その中に分散された少なくとも1種のフルオロポリマーフロックと、少なくとも1種の可湿性構造有機フロックとの混合物を含んでなる可飽和不織材料。

2. 可飽和不織材料の約30重量%までであるバインダーをさらに含んでなる上記1に記載の可飽和不織材料。

3. 前記フルオロポリマーフロックが前記混合物の少なくとも約30重量%である上記1に記載の可飽和不織材料。

4. 前記フルオロポリマーフロックが少なくとも1種のパーカッ素化ポリマーを含んでなる上記1に記載の可飽和不織材料。

5. 前記バインダーが少なくとも1種の纖維状材料を含んでなる上記2に記載の可飽和不織材料。

6. 前記バインダーが少なくとも1種のアラミドフィブリドを含んでなる上記2に記載の可飽和不織材料。

7. 前記バインダーが少なくとも1種のアラミドフィブリドと樹脂との混合物を含んでなる上記2に記載の可飽和不織材料。

8. 上記1に記載の可飽和不織材料とマトリックス樹脂とを含んでなるプレプレグ。

9. 上記1に記載の可飽和不織材料を含んでなる自動給油軸受。

10. その中に分散された約40重量%~約60重量%のフルオロポリマーフロックと、約10重量%~約40重量%の可湿性構造有機フロックとの混合物を含んでなる可飽和不織材料。

11. 約10重量%~約20重量%のバインダーをさらに含んでなる上記10に記載の可飽和不織材料。

12. その中に分散された約40重量%~約60重量%のフルオロポリマーフロックと、約60重量%~約40重量%のメタ-アラミドフロックとの混合物を含んでなる可飽和不織材料。

13. その中に分散された約45重量%のフルオロポリマーフロック、約36重量%のメタ-アラミドフロック、約10重量%のメタ-アラミドフィブリド、および約9重量%の樹脂の混合物を含んでなる可飽和不織材料。

14. 上記1に記載の可飽和不織材料の製造方法であって、

a) 可湿性構造有機フロック、フルオロポリマーフロックおよび場合によりバインダーを含んでなる混合物の水性分散系を製紙装置のスクリーン上へ送達する工程と、

b) 水性分散系から水を抜いて湿った紙フェルトを残す工程と、

c) 湿った紙フェルトを乾燥する工程と

を含んでなる方法。

15. 材料のさらなる高密度化のために前記乾燥不織材料をカレンダー加工する工程を
さらに含んでなる上記14に記載の方法。